

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 徐 佳 (XU Jia)

論 文 題 目 Urbanization and Disaster Risk Reduction in
Urban China: The Social Vulnerability Perspective (中国の
都市における都市化と災害リスク軽減：社会的脆弱性の観点)

論文審査担当者

主 査	名古屋大学大学院環境学研究科	教 授	高橋 誠
副 査	名古屋大学減災連携研究センター	教 授	鈴木 康弘
副 査	名古屋大学大学院環境学研究科	准教授	伊賀 聖屋
副 査	名古屋大学大学院環境学研究科	准教授	室井 研二

論文審査の結果の要旨

自然災害のリスクが自然外力と、それを受ける社会の状態との関係によってとらえられるという考え方は、1980年代後半以降、主として英語圏の地理学・社会学・人類学などにおいて理論化が図られてきた。とりわけ、災害に対する社会の弱さは社会的な脆弱性として概念化されてきたが、それが増大する要因は国や地域によって異なるため、そのことをローカルの文脈で探ることが災害リスク軽減のための重要な研究課題とされている。本論文は、近年の経済発展が著しい中国を事例に、脆弱性が都市化によってなぜどのように増大するかを、都市の社会的・空間的变化や中国特有の社会制度との関係から理論的・実証的に明らかにしたものである。

本論文は全7章から構成される。第1章では、世界における近年の環境変動、災害の発生状況、都市化の動向を踏まえ、本論文の課題と目的を提示した。第2章では、先行研究のレビューから、脆弱性の観点を災害リスク軽減研究に理論的に意義づけた。また文献計量学的分析から、中国の災害に関する研究が自然科学的・工学的なアプローチに偏っていることを確認した。第3章では、主として文献調査から、1970年代後半の改革開放政策以降の中国における都市化を、都市と農村の格差、都市における環境悪化、サービス供給の不均等といった問題との関連で整理した。第4章では、都市化による変化を社会的・空間的な周縁化としてとらえ、都市への移住者が「城中村」(urban village)と呼ばれる地区に集住し、生活の困窮が常態化するメカニズムを、都市計画、戸籍制度、地域ガバナンスとの関係から理論的に議論した。第5章では、武漢市における筆者の質問紙調査から、自然外力への暴露・感受性・適応力に配慮して筆者が考案した脆弱性のインデックスと、市内各地区の社会経済的特性との関係を量的に分析し、教育水準、健康状態、生計の安定性、公共サービス受給などの点で、災害の影響を受けやすい状態が移住者の集住地区で顕著な傾向を見出した。第6章では、青島市の市街地拡大地区における綿密なフィールドワークから、地付き住民が都市開発から利益を得る一方で、主として四川省農村部出身の移住者が、より危険な区域に居住し、不安定な生活資源に依存し、地元地域社会から疎外された状態に至るプロセスを実証的に明らかにした。第7章では、各章の知見をまとめ、都市化と脆弱性との関係を議論するとともに、社会的観点に配慮した災害リスク管理への政策的示唆と今後の研究課題を提示している。

日本や中国の災害研究では、自然科学的・工学的な研究に比して、社会科学的研究は著しく立ち遅れおり、脆弱性に関する体系的な研究はほとんど見られない。本論文は、脆弱性の概念を膨大な文献調査から理論的に整理するとともに、実態がよく知られていない中国の都市社会に関する筆者のオリジナルデータに基づいて、その増大のプロセスとメカニズムを実証的に論じた点において高く評価される。

よって、本論文の提出者である徐佳(XU Jia)氏は、博士(地理学)の学位を授与するにふさわしいと判断した。